

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 英語観光学科	職名 教授	氏名 箕野 聡子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
1) 視聴覚教材の活用・アクティブラーニングの活用	2003(平成15)年4月 ～現在	一方的な講義形式になりがちな文化・文学の授業において、資料DVD、パワーポイントを活用することによって、作品への理解や関心を深めるようにしている。さらに、学生によるパワーポイント発表と受講生による質疑応答を適宜取り入れ、プレゼンテーションの練習とそのフィードバックを行っている。	
2) 授業確認の作業	2003(平成15)年4月 ～現在	授業の理解度をはかるために、毎回授業終了時に小レポートを提出させるか、ノートを提出させる。小レポートの課題については、授業開始時に知らせることで、授業への集中力をうながしている。また、ノートを提出させるときには、あらかじめ講義に沿った書き込み式の用紙を配る。小レポートもノートも、教員がチェックし次週に返却し、フィードバックを行う。	
3) ゼミにおけるメーリングリストの利用	2006(平成18)年4月 ～現在	ゼミ生全員が電子メールの利用が可能であることを踏まえ、メーリングリストを利用し、各種連絡、質問・回答、などに利用している。これにより、講義時間外のゼミ準備作業や論文作成時などでも、学生とのコミュニケーションがとれ、円滑に学習を進めることが可能となっている。近年はグループLINE・Googleクラスルームも利用している。	
4) 授業の組み立ての工夫 (時間の分割)	2003(平成15)年4月 ～現在	長時間同じ話題に集中することができない近年の学生の傾向にあわせ、授業では15分以上同じ話題が続かないように工夫している。学生間の討議や視聴覚教材を挟むなどし、アクティブラーニングも取り入れつつ、常に顔が上がるように、刺激を与えるように、授業プログラムを組んでいる。	
5) 新聞への投稿による文書力の育成	2009(平成21)年4月 ～現在	「日本語文章構成法」においては、読者を意識した文章を書く練習を行う。まずは作成した書評の図書館常時展示により、学内の読者を意識した文章作成を研究する。その後、社会問題を取り扱った内容で新聞への投稿原稿作成を行う。一般読者を意識した文章作成の訓練は、学生の学習意欲を高めている。15年間で38名の原稿が新聞に掲載された。	

6) 企業公募への応募による社会調査力の育成	2010(平成22)年10月～現在	「日本語文章構成法」では、コピー作成技術の習得とともに、時代や企業からのニーズを正確にくみ取る訓練として、学生が自主的に、公募されているネーミングコピーに応募する方法を導入した。実際に入選するには、企業や時代のニーズを正確に読み取る必要がある。結果として、「まちづくり標語懸賞」の特選をはじめとし、高等学校のマスコットや新設設備のネーミング、エッセイコンクールなどで、入賞を果たしている。
7) ハイブリッド授業の導入	2020(令和2)年4月～現在	新型コロナウイルス感染防止対策のため、2020年4月からは、zoomやmeetを使ったオンライン授業とともに、YouTube動画を利用して授業を提供するオンデマンド教材を使った授業を行ってきた。2021年10月からは、リアルタイムの対面授業が始まったが、必要に応じてオンライン配信し、希望者は自宅から学修できるようにした。Googleクラスルームを利用して、資料をデータで共有し、課題提出もオンラインで行えるようにした。
8) クラブ活動の指導	2001(平成13)年～現在	2007年よりアナウンス研究会・2009年より文化研究会の顧問をし、学生の個別指導にあたった。特にアナウンス研究会はNHK全国放送コンテストで第24回の朗読・アナウンスの二部門で優勝し、第27回のDJ部門で本選出場を果たした。文化研究会では、韓国からの留学生を部員に迎え、異文化交流を行った。2016年には文化研究会の主催公演を企画し、六甲アイランドオルビスホールで「KOB E発信!! スタイリッシュな伝統芸能」と題した英語寄席を催し、神戸からの文化発信を行った。アナウンス研究会は毎年12月、FM Moov(神戸元町)で、他大学との合同生放送を行っている。
9) 委員会活動	2001(平成13)年～現在	2024年度は、学報編集委員会、広報委員会、地域交流・生涯教育委員会(委員長)・ハラスメント相談委員会の委員を務めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
1) 神戸文学館 土曜サロン 「青谷・王子文学散歩」	2013(平成25)年4月～ 2024(令和6)年4月	2013年より、毎年4月に定期的に行っている講座である。神戸文学館を発着地とし、大学のある青谷を含めた地域を散策する講座である。谷崎潤一郎、田辺聖子、横光利一、岡部伊都子、村上春樹、小川洋子らゆかりの作家についての解説を加えながら、灘区の文化的な歴史を見直す講座とした。2024年度は、学生ガイドも加えて実施した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号 数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書・論文・発表等					
論文「元禄11年の近松狂言『ワサン茂兵へ』-菊池寛『藤十郎の恋』の周辺」	単著	2021(令和3)年8月	「文藝 もず」(第22号)高松市菊池寛記念館		182頁～191頁
論文「菊池寛と1920年代の神戸(その3) 1928・1929年の「大坂朝日新聞 神戸版」を資料として」	単著	2022(令和4)年2月	「研究紀要」(第60号)神戸海星女子学院大学研究委員会		51頁～58頁
書評「大橋毅彦著『神戸文芸文化の航路一画と文から辿る港街のひろがり』」	単著	2024(令和6)年10月	日本近代文学会 関西支部 会報40号		4頁
論文「万城目学『悟浄出立』考一「悟浄出立」「趙雲西航」「虞姫寂靜」にみる故郷喪失者たちの物語一」	単著	2025(令和7)年2月	「研究紀要」(第63号)神戸海星女子学院大学研究委員会		23頁～32頁
論文「『錦繡』一宮本輝が描く阪神間・西宮一」	単著	2025(令和7)年2月	「研究紀要」(第63号)神戸海星女子学院大学研究委員会		33頁～42頁
大学連携講座					
生涯学習 神戸海星女子学院大学「初心者のための伝統芸能入門」 秋コース(全9回)			2019(令和元)年10月～2020(令和2)年12月	日本の伝統芸能の内、落語・文楽・歌舞伎・能狂言が世界でどのように評価されているかの考察をおこなった。	
生涯学習 神戸海星女子学院大学「日本のアニメと近代文学」(全8回)			2021(令和3)年10月～2021(令和3)年12月	スタジオジブリ製作の作品を取り上げる、これらの作品世界をより詳しく考察するために、これまでの日本近代文学作品では同様なテーマがどのように描かれてきたかを考察した。	
生涯学習 神戸海星女子学院大学「関西文化が育んだ文学」(全8回)			2022(令和4)年5月～2022(令和4)年7月	関西文化の影響を受けた8人の作家の作品を読み解いた。	

生涯学習 神戸海星女子学院大学「関西文化が育んだ文学」 (全8回)	2023 (令和5) 年5月～ 2023 (令和5) 年7月	関西文化の影響を受けた8人の作家の作品を読み解いた。
生涯学習 神戸海星女子学院大学「関西文化が育んだ文学」 (全7回)	2024 (令和6) 年5月～ 2024 (令和6) 年7月	関西文化の影響を受けた7人の作家の作品を読み解いた。
大学連携講座 「神戸の風景と文学Ⅱ」	2021 (令和3) 年9月	神戸老眼大学 (神戸市生涯学習センター) 神戸文化センター大ホール
大学連携講座 「神戸の風景と文学 トアロード」	2021 (令和3) 年12月	こうべ生涯学習カレッジ (コミスタ神戸)
依頼講演		
生涯学習 宝塚公民館 「関西文化に育まれた文学」 (全8回)	2019 (平成31) 年6月～ 2020 (令和2) 年1月	宝塚歌劇で演じられた作品・宝塚の卒業生が演じた作品の原作に注目し考察した。 ① 6月 坪内逍遙「桐一葉」 ② 7月 樋口一葉「たけくらべ」 ③ 8月 泉鏡花「天守物語」 ④ 9月 谷崎潤一郎「春琴抄」 ⑤ 10月 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」 ⑥ 11月 太宰治「グッドバイ」 ⑦ 12月 司馬遼太郎「燃えよ剣」 ⑧ 1月 つかこうへい「蒲田行進曲」
記念講演 神戸文学館 「1920年代の神戸と文学・芸能について」	2020 (令和2) 年8月	企画展「東西見聞録」神戸文学館

生涯学習 宝塚公民館 「関西文化に育まれた文学」(午前の部・午後の部、全5回×2)	2020(令和2)年10月 ~2021(令和3)年2月	宝塚歌劇で演じられた作品の原作に注目し考察した。 ① 10月 近松門左衛門「冥土の飛脚」 ② 11月 上田秋成「雨月物語」 ③ 12月 山本周五郎「さぶ」 ④ 1月 吉川英治「宮本武蔵」 ⑤ 2月 浅田次郎「壬生義士伝」
記念講演 神戸文学館 「神戸で花開いた大衆文化」	2020(令和2)年10月	企画展「新開地物語」神戸文学館
生涯学習 宝塚公民館 「関西文化に育まれた文学」(全8回)	2021(令和3)年6月~ 2022(令和4)年1月	宝塚歌劇で演じられた作品の原作に注目し考察した。 ① 6月 田辺聖子「新源氏物語」 ② 7月 井上靖「楊貴妃伝」 ③ 8月 藤沢周平「蟬しぐれ」 ④ 9月 高橋克彦「火怨」 ⑤ 10月 「万葉集」 ⑥ 11月 森鷗外「舞姫」 ⑦ 12月 手塚治虫「ブラック・ジャック」 ⑧ 1月 三島由紀夫「春の雪」
生涯学習 芦屋公民館「冬の公民館講座」 「芦屋再発見! 近現代文学から」	2021(令和4)年2月	小川洋子「ミーナの行進」に描かれた阪神
生涯学習 宝塚公民館 「関西文化に育まれた文学」(全8回)	2022(令和4)年6月~ 2023(令和5)年1月	神戸を舞台とした作品を考察した。 ① 6月 神戸と坂の物語 ② 7月 神戸と海の物語 ③ 8月 神戸トアロード物語 ④ 9月 神戸異人館物語り ⑤ 10月 神戸新開地物語 ⑥ 11月 関東大震災と神戸の文学 ⑦ 12月 神戸とレトロな物語 ⑧ 1月 神戸青谷・王子を舞台とした物語
西宮市文化振興財団 生涯学習講座「西宮文学案内 前期講座」	2022(令和4)年8月	「井上靖の描く関西・西宮」

生涯学習 芦屋公民館「夏の公民館講座」 「神戸とミステリー」	2022（令和4）年7月～ 9月	江戸川乱歩「人間椅子」・横溝正史「悪魔の手毬唄」・陳舜臣「六甲山心中」
高松市 菊地寛記念館「文芸講座」	2022（令和4）年2月	「菊地寛『藤十郎の恋』と上方歌舞伎」
生涯学習 芦屋公民館「冬の公民館講座」 「関西の伝説と近代文学」	2022（令和4）年1月～ 3月	森鷗外「生田川」・泉鏡花「天守物語」・小泉八雲「生き神様」
生涯学習 宝塚公民館 「関西文化に育まれた文学」（全8回）	2023（令和5）年6月～ 2024（令和6）年1月	関西文化に縁のある作品を考察した。 ① 6月 浅田次郎「蒼穹の昴」 ② 7月 山手樹一郎「夢介千両みやげ」 ③ 8月 山田風太郎「柳生忍法帖」 ④ 9月 東野圭吾「マスカレード・ホテル」 ⑤ 10月 塩野七生「小説イタリアルネッサンス1ーヴェネツィア」 ⑥ 11月 原田マハ「美しき愚かものたちのタブロー」 ⑦ 12月 玉岡かおる「負けんとき ヴォーリス満喜子の種蒔く日々」 ⑧ 1月 上田早夕里「播磨国妖綺譚」
はびきの市民大学 前期 学長企画講座 「大阪モダニズムー美術、音楽、建築、文学ー文化的視点から」	2023（令和5）年7月15日	「可能性の文学、小説家・織田作之助」
西宮市文化振興財団 生涯学習講座「西宮文学案内 前期講座」	2023（令和5）年8月24日	「関東大震災と神戸阪神間の文学」
生涯学習 芦屋公民館「夏の公民館講座」 文化に育まれた文学」	「関西」 2023（令和5）年8月19日・9月16日	谷崎潤一郎「細雪」・田辺聖子「言い寄る」
芦屋川カレッジ（主催；芦屋市）〈地域を学ぶ・文学〉	2023（令和5）年9月13日	「小川洋子『ミーナの行進』～モダンでレトロな芦屋」
はびきの市民大学 後期 「歴史という物語について」	2024（令和6）年1月6日	「浅田次郎『壬生義士伝』について」

生涯学習 芦屋公民館「冬の公民館講座」 文化に育まれた文学」	「関西	2024（令和6）年2月26日・3月11日	今東光「悪童」・稲垣春帆「星を造る人」/堀辰雄「旅の絵」・竹中郁「象牙海岸」
生涯学習 宝塚公民館 「関西文化に育まれた文学」（全8回）		2024（令和6）年6月～ 2025（令和7）年1月	関西文化に縁のある作品を考察した。 ① 6月 谷崎潤一郎「細雪」 ② 7月 田辺聖子「言い寄る」 ③ 8月 小川洋子「ミーナの行進」 ④ 9月 志賀直哉「城崎にて」 ⑤ 10月 太宰治「グッドバイ」 ⑥ 11月 坂口安吾「桜の森の満開の下」 ⑦ 12月 織田作之助「夫婦善哉」 ⑧ 1月 林芙美子「放浪記」
生涯学習 芦屋公民館「夏の公民館講座」 「関西文化に育まれた文学」		2024（令和6）年8月19日・9月2日	原田マハ「美しき愚かものたちのタブロー」・玉岡かおる「負けんとき ヴェーリズ満喜子の種まく日々」
西宮市文化振興財団 生涯学習講座「西宮文学案内 前期講座」		2024（令和6）年9月12日	「宮本輝の描く 阪神間・西宮」
芦屋川カレッジ（主催；芦屋市）〈地域を学ぶ・文学〉		2024（令和6）年9月18日	「小川洋子『ミーナの行進』～モダンでレトロな芦屋」
記念講演 神戸文学館 「関西学院と作家～美術と文学の融合」		2024（令和6）年10月5日	企画展「生誕120年 神戸文学館の軌跡 原田の森と歩んで」神戸文学館
その他			
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
日本文藝学会	学会員・常任理事（2013年12月～2024年4月）		
神戸近代文化研究会	会員・代表者（2015年4月～2018年3月）		
阪神近代文学会	学会員・運営委員（2009年7月～2012年7月）		
日本近代文学会	学会員		